

# JST、令和5年度 さくらサイエンス・ハイスクールプログラム

科学技術振興機構（JST）は、さくらサイエンスプログラムにおいて、一般公募で採択されたプログラムを支援する事業に加えて、JST自らが受入れ機関として海外の優秀な高校生を日本に招へいする事業「さくらサイエンス・ハイスクールプログラム（SSH P）」を実施している。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、海外からの渡航が困難な状況下にあった2020～21年度は招へいを見合わせていたが、22年度から、感染予防対策等を実施しながら招へいを順次再開している。今年度は35の国と地域から721名を7グループに分けて4月から12月にかけて招へいしている。なお、今年度より、アフリカの3カ国、欧州の1カ国が新たな招へい国として加わっている。

## ■ プログラム内容

SSH Pでは海外の優秀な高校生（および引率者）が一週間日本に滞在して、JSTが特別に企画した交流プログラムに参加する。来日した高校生が日本の科学技術への関心を高めることにより、日本の大学・研究機関や企業も必要とする海外の優秀な人材が成長することで、グローバルな科学技術の発展に貢献することを目的としている。

- ノーベル賞受賞者を含む一流の科学者による特別授業への参加
- 著名な日本の大学・研究機関の訪問
- 日本の高校生との交流
- 駐日大使館の訪問
- 日本の文化体験 など

## ■ 参加高校生への将来の期待

各グループにおいては、日本学生支援機構（JASSO）の協力による日本の留学制度説明、さくらサイエンスクラブ会員（全参加



日本の高校の授業に参加(4月20日、都立富士高校)



学園都市つくばで研究現場を見学(5月16日、JAXA)



数学者・秋山氏の特別授業(8月1日、東京理科大学)

者に付与)としての同窓会活動および情報交換、SNSを介した情報の発信等、プログラム参加者には日本との関わりを継続・発展させるための機会が多く与えられている。

プログラムへの参加機会を得た海外の高校生が、科学技術分野への関心をより一層深め、将来日本との研究開発・技術革新の活動機会を得て再来日を果たすことが期待されている。

## ■ 参加者の声

(アンケート回答からの抜粋)  
「同年代の日本の高校生や留学生との交流はすばらしい経験だった」「またいつの日か留学生や研究者として日本に来たい」「日本が宇宙や天文学を含む科学のリーダー国の一つであることを知ることができた」「日本の高校を訪問したことで、多様性の重要性について考えさせられました。多様性が革新的なアイデアを生み出すことに気付きました」

グループ	日程	招へい者
第1グループ	4月16日～4月22日	83名
第2グループ	5月14日～5月20日	87名
第3グループ	6月25日～7月1日	110名
第4グループ	7月9日～7月15日	97名
第5グループ	7月30日～8月5日	112名
第6グループ	11月5日～11月11日	116名
第7グループ	12月10日～12月16日	116名
合計		721名